

# コープネットの 放射性物質問題への対応 についてお知らせします

福島第一原発事故による放射能汚染は、組合員の皆さんの生活に大きな不安を引き起こしています。中でも、暮らしに不可欠な食品へのご心配は大きく、これまでたくさんのお問い合わせをいただいています。コープネットは、ご利用の多い食品や不安の高い食品などの自主検査を実施。日本生協連にも協力を要請し、メーカーや産地と協力して組合員の皆さんに安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。これからも、検査体制を充実させ、内容や結果などをお知らせしていきます。



コープネット商品検査センターでの放射性物質検査の様子(検体:春菊)

## ご利用の多い食品、不安の高い食品などを中心に 放射性物質の自主検査をしています

2012年2月末で3,000件を越える自主検査を実施しています。

コープネットの放射性物質の自主検査の取り組みと、国による新規格基準(案)への対応をご報告します。

### 例えばお米は検査を強化し、 銘柄別、産地別、出荷単位別に細かく区分し、 のべ220地区以上の検査を行ってきました。

コープネットでは組合員の皆さんに安心してご利用いただけるように、外部検査機関による、放射性物質の自主検査を実施してきました。9月以降は、コープネット商品検査センターに測定器「NaIシンチレーションスペクトロメータ」を導入し、自前での検査も始めました。自前検査では、検体が届いた当日に結果が出るようになり、スピードが格段に向上しました。

コープネット商品検査センターはこの間、放射性物質検査への対応を最優先課題とし、不安度の高い食品を中心に優先順位をつけて検査を実施しています。

### すでに本年1月から、4月施行予定の 新規格基準に対応した検査を実施

国では放射性セシウムの新規格基準(案)が策定され、4月1日から施行の予定です。これに先がけ、コープネットでは、1月から新規格基準(案)に対応した運用を開始しており、新たな検出限界の設定と対応基準で、放射性物質の自主検査を実施しています。

検査精度に優れた「ゲルマニウム半導体検出器」と、迅速性に富む「NaIシンチレーションスペクトロメータ」の2種類の測定器を組み合わせ、より多くのサンプルを精確に検査しています。



### 自主検査の重点対象商品

組合員さんのご利用が多く、放射性物質への不安度の高い食品を中心に、優先順位をつけて検査を行っています。



# 国の新規格基準(案)に対応した検査を実施しています

コープネットでは本年1月から、新規格基準(案)に対応した検査を実施。  
より多くのサンプルを正確に検査できるようにしています。

## 【コープネットが実施している放射性物質自主検査の概要】

コープネットの自主検査方法(1月から実施)

食品区分	国の新規格基準(案)	検出限界※1	測定方法と測定器の種類	
一般食品	100ベクレル/kg	20ベクレル/kg	スクリーニング検査※2 NaIシンチレーション スペクトロメータ	スクリーニング検査で 20ベクレル/kg以上検 出した場合、確認検査を 行います
		10ベクレル/kg	確認検査※3 ゲルマニウム半導体 検出器	
飲料水	10ベクレル/kg	1ベクレル/kg		
牛乳	50ベクレル/kg	5ベクレル/kg	乳児用食品の検査に 準じた検査※3 ゲルマニウム半導体 検出器	検出限界を超えて検出 した場合、再検査を行いま す
乳児用食品				

- ※1 検出限界値は、検体の性状や検査時間などにより、変動する場合があります。
- ※2 スクリーニング検査は、短時間(約20分)で迅速に結果を出せる簡易検査法で、数多くのサンプルの検査が可能。スクリーニング検査で一定以上の線量を検出した場合、検査精度の高い検査法(確認検査)で確認します。
- ※3 一般食品の中で、特に小さいお子さまの利用が想定される食品(乳製品、乳酸ドリンク、プリンなど)については、一般食品ではなく、乳児用食品の検査に準じた検査(検査精度を重視したゲルマニウム半導体検出器による検査)を行います。

### 優先的に検査を行うもの

組合員さん  
ご利用が多い食品  
米、水、牛乳、たまご、農産品、  
肉類、魚介類など



放射能への  
不安度の高い食品

乳幼児・子どもの摂取の多い食品  
(粉ミルク、ベビーフード、プリン、ヨーグルト、  
氷菓用キャンデー、しらすなど)



## 放射性物質検査の一例

測定器：NaIシンチレーションスペクトロメータ  
検体：春菊



1. 泥や根、変色した葉を取って水洗いし、水分を拭き取る。可食部をフードプロセッサーで細かく刻み、検体を均質化する。



2. 容器に隙間を作らないよう検体(1検体で約1kg必要)を詰め、他のものが付着しないよう容器をポリ袋へ入れ、検出器へセット。

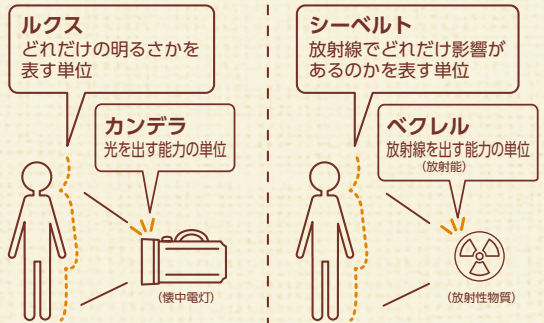
3. パソコンに検体情報(検体名・産地・製造者・部位など)と、測定条件(重量、所要時間など)を入力し、測定開始。

4. 約20分で終了。この放射能測定器は、検体から発する放射線を電気信号に変えて、ヨウ素131、セシウム134、セシウム137の濃度測定をします。

## 「ベクレル」と「シーベルト」

ベクレル(Bq)：放射能の強さを計る単位で、単位時間に原子核が崩壊する数を表したものです。

シーベルト(Sv)：人間が放射線を浴びたときの影響度を表す単位です。



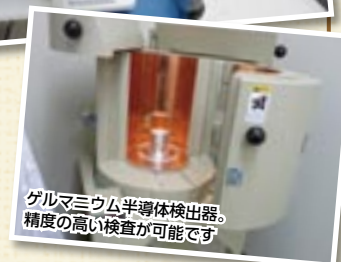
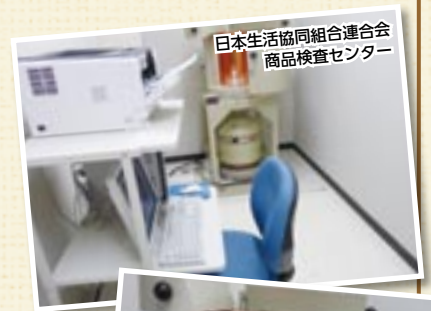
出典：電気事業連合会「原子力・エネルギー図面集」2011年版  
人への健康影響を計る単位としては、シーベルトを使います。ベクレルからシーベルトへ換算する式があり、ベクレルに実効線量係数を掛けて計算できます。

## 日本生活協同組合連合会の取り組み

日本生活協同組合連合会は、全国の生協、メーカーや生産者と協力し、組合員の皆さんにより安心して商品をご利用いただくための取り組みを進めています。

これまで全国生協で11,500件の自主検査を実施し、CO・OP商品のメーカー430社からも検査計画や検査の内容について報告を受けています。また現在、新たに設定される食品中の放射性物質の基準に対応し、更なるモニタリング検査の強化を全国生協、メーカー・生産者とともに進めています。(数字は2012年1月末のもの)

日本生活協同組合連合会商品検査センターではCO・OP商品の検査とあわせ、会員生協からの依頼にもとづいて生協で取り扱う商品の自主検査を実施しています。また、2011年12月からは会員生協とともに全国18都県・約250家庭の協力を得て「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」に取り組んでいます。



コープネットはこれからも、

# これからも必要な情報をていねいにご案内していきます

## 放射性物質の自主検査の結果をお知らせしています。

毎週お届けしている「お届け明細書兼請求書」、コープネットのホームページでこれまでの自主検査の結果をお知らせしています。

ホームページでのお知らせ

品名	単位	検査結果	検出値	検出単位	検出場所
...	...	...	...	...	...

お届け明細書兼請求書でのお知らせ

品名	単位	検査結果	検出値	検出単位	検出場所
...	...	...	...	...	...



## 「ハピ・デリ！」でご案内する情報を見直しました



商品の製造地を都道府県名まで表記するようにしました。

※ホームページでは野菜など生鮮品の「産地一覧」「取り扱い商品の原料及び産地情報」をご案内しています。

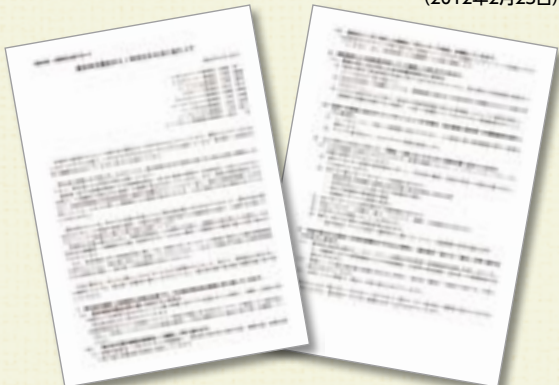
コープネット

検索

詳しくはコープネットホームページをご覧ください。

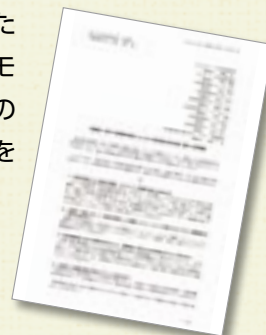
## 東日本大震災から1年をむかえるにあたって

コープネットと会員生協は東日本大震災から1年をむかえるにあたって改めて、協同組合の助け合いの精神にもとづき、組合員・消費者の暮らしを守るとともに、被災者支援と被災地の復興支援に取り組んでいくことを表明しました。(2012年2月23日)

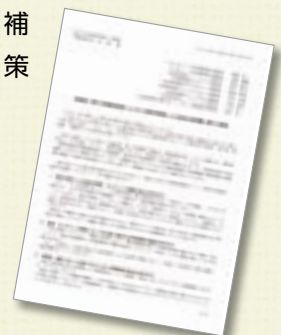


## 福島第一原発事故にともなう要請書を政府に送りました。

コープネットと会員生協は、福島第一原子力発電所事故にともなう、放射性物質による食品汚染問題に関する要請書を昨年6月1日に政府に送付しました。食品に含まれる放射性物質について、政府が消費者・国民の疑問にこたえるよう、検査・モニタリング調査の強化などの施策を求めます。



福島第一原子力発電所事故にともなう、放射能汚染対策に関する要請書を昨年9月21日に政府に送付しました。政府に対して、消費者・国民の食品への不安解消、健康リスクの低減、生産者への早期補償などの施策を求めます。



取り組みを進めていきます。

# 生産者と一緒に対策に取り組んでいます

## 産地の放射能汚染問題への努力

コープネットと産地は、一緒に話し合いながら、明確な生産・流通方法などの確立や環境に配慮した事業を進めてきました。産地や生産者は、放射能汚染の問題が発生した後も、安心してご利用いただくための努力を行い生産を続けています。



### 多古町旬の味産直センター(千葉県)

#### 出荷する農産物について

外部検査機関による放射性物質検査を自主的に行っています。生産者ごと、出荷する農産物ごとにサンプリングして、今までに100検体以上検査しました。

2月からは、検査機器を独自に購入して自主的に点検を始めました。グリーンボックスは、毎日必ず1検体サンプリングして点検をしています。

#### 菌床栽培の生しいたけについて

菌床に使用するおが粉は、放射性物質検査を行って問題のないものを使用しています。また菌床の米ぬかは、定期的に放射性物質検査をした旬の味産直センターの精米工場のものを使用しています(農家全戸の玄米を検査しています)。

菌床全体についても、外部検査機関で林野庁の菌床しいたけの検査法に基づいた検査を定期的に行い、問題のないことを確認しています。

心配のない農産物をお届けできるよう、産地が取り組む放射能汚染問題に対する努力は、主に2つに分けられます。



▲生しいたけの菌床に使用するおが粉のサンプリング検査

#### ①栽培前・栽培中

土壤検査、堆肥と肥料の確認・検査、土壤耕耘・深耕・ゼオライトの使用などによる除染の努力といった、**栽培で使用するものへの配慮**



▲出荷前の商品の検査

#### ②栽培後

放射性物質自主検査の実施、安全性広報の工夫といった、**育て上げ、出荷する商品への配慮**



### 「co-op 三陸産生わかめ」・「co-op 宮城県産めかぶ」の産地

震災で大きな打撃を受けた三陸の産地では、2月よりわかめ・めかぶの収穫が始まっています。2012年度産のものについては、原料・製品化の段階ごとに、産地(漁協)・加工会社・日本生協連の検査センターそれぞれで検査体制を組んでいます。



岩手県唐丹町漁協にて。2012年2月28日撮影

#### 【原料は浜ごとに検査】

コープ商品に使用しているのは「21カ所」の浜で水揚げされた原料です。その21浜すべてを検査し、問題のない浜のものを使用して製品化します。3月供給再開の「めかぶ」は、3月初めに1浜の原料検査を行いました。5月に供給再開予定の「生わかめ」については、水揚げが本格化する3月から4月にかけて、20浜の原料検査を順次行っていきます。

#### 生産者

全漁連・宮城県漁連・岩手県漁連で協力して検査体制を組んでいます。

#### 製造者

各漁連の検査以外にも、独自で検査を実施します。三陸産生わかめのメーカー・かわむらでは、受け入れた新物原料を浜ごとに検査します。



宮城県産めかぶのメーカー・丸ほ保原商店では、受け入れた新物原料を浜ごとに検査し、また初回生産時にも原料を浜ごとに検査します。その後は、3～5月の収穫期間は浜ごとに毎月原料を検査します。

#### 【さらに製品も検査】

#### 販売者

日本生協連でも、生原料と製品の両方の検査を行います。めかぶ・生わかめについては、製品の検査を行ったうえで、問題ないことを確認してから出荷します。